



TITLE:

北京より

AUTHOR(S):

小野

CITATION:

小野. 北京より. 東洋史研究 1938, 3(6): 530-530

ISSUE DATE:

1938-09-28

URL:

<https://doi.org/10.14989/147089>

RIGHT:

の文獻論叢中、滿文老檔の重鈔年次に言及して（滿文老檔之文字及中料一、一二頁）方甦生が「内閣舊檔輯刊」叙録中に述べたところと全く同様のことを同様の資料に基いて述べてゐる。

⑦果して李德啓が、かういふ年次を語つたとすれば、右文

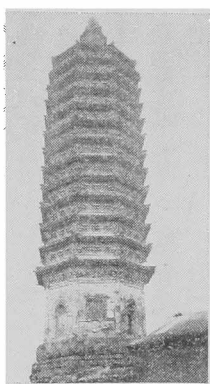
獻論叢の説述中（註⑥）に示す處があつてしかる可き様に思はれる。

⑧ Beiträge zur Mandjurischen Bibliographie und Literatur. S. 50.

北京より

先週の日曜日桑原親通氏を案内して通州に行つて來ました。例の塼塔を見物する爲に。尤も氏は通州事件の跡を弔するが主目的でした。一時半頃の汽車で通縣

云ふ鐵鑄の大砲が五六門ころがつて居りました。長さは五尺ばかり、粗末な作りで銘文がなとさかしてもありませんでした。塼塔は仲々立派です。『通州志』に依ると



然燈佛燈

ものと見えます。驛から此堤防の上を城に向ふのです。有名な塼塔は御承知の様に城の北壁の側にあります。行く途中細木特務機關長が最期を遂げた所があり。更に憲兵隊の前には近頃の工事で出たと

舊志云。在州城内州治西北佑勝教寺内舊有斷碑。載係然燈佛舍利寶塔。塔十三級。下作蓮華臺。後周宇文氏時建。

唐貞觀七年尉遲敬德監修。元至德間篤列岡述再修。明成間州訓導楊明有重修舍利塔記。國朝康熙九年黃花山僧智亭重修。十八年地震。盡圯。三十年僧照感募建。自三十年始。每歲營塔。有塔三十五年。知州吳存禮倡議。公捐。落成。云々

とあります。これに依ると清朝の時のもので、様に思はれますが、近づいて見た感じは若干舊い形式を傳へて居る様に思ふがどうでせうか。相當失はれて居るが簷の桁の先に風鐸が多数ぶら下つて居るのが面白いと思ひました。近水樓とか事變死亡者の墓などを見て歸途に就く。八月十六日、小野生。